

エルサルバドルの大統領選挙(短信)

著者	田中 高
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	ラテンアメリカレポート
巻	11
号	2
ページ	51-51
発行年	1994-06-20
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00006406

エルサルバドルの大統領選挙



サンタアナ市内の投票風景

エルサルバドルでは1994年3月20日、正副大統領、国会議員、市長・市会構成員選挙が行なわれた。12年間に及んだ内戦終結の総仕上げとなった今回の総選挙は、内外の注目を集めた。日本からも筆者を含む計16名が、国連選挙監視員として現地入りした。

3月の第一回投票では、大統領選挙についてはいずれの政党の候補者も過半数を獲得することができなかった。その結果与党 ARENA (国民共和同盟) のアルマンド・カルデロン・ソル候補、CD=FMLN=MNR (左翼連合：民主連合、ファラブンド・マルティ民族解放戦線、国民革命運動) のルベン・サモラ・リバス候補の決選投票が4月24日に行なわれた。なお日本からの国連選挙監視員は、ほぼ同じメンバーが決選投票にも参加した。

4月26日現在の開票速報では、有効投票総数のうちカルデロン・ソル候補が68.27%の得票率で圧倒的な強さを示し、当選を確実にした。一方のルベン・サモラ候補は31.73%の得票率であった。

ONUSAL (国連エルサルバドル監視団) の報告書では、第1回選挙の投票率を55%と推計している。これは前回の1991年の国会議員選挙の数字よりは高いものの、選挙関係者の期待していた数字よりは低かった。

今回の選挙では、選挙登録をしていたにもかかわらず

田中 高
(中部大学助教授)

ず、有権者名簿に名前が記載されていないために、投票できなかった有権者が相当数にのぼったということである。実際筆者が投票所にいると、どこに自分の名前があるのか探して欲しいと、断わりきれないぐらい頼まれた。有権者名簿の掲示がかなり無秩序なうえに、文盲の有権者が実に多くて、実際には名前が登録されているのに、見つけれなくて諦めて帰ってしまうという例も見受けられた。もちろん、どんなに探しても見つからない例もかなりあった。

左翼連合が主張するように、政府与党が選挙戦を有利にするために故意に名簿を改ざんしたという可能性は低いと思われる。むしろ技術的な不手際に加えて、文盲率の高さ(都市部で30%、地方で60%以上)、投票所内の案内のまづさなどを問題点として指摘できるのではなかろうか。しかし4月24日の決選投票の際には、前回の不手際はかなり改善されていた。

投票所のなかでは、ARENA と CD=FMLN=MNR の運動員が話し合いで問題を解決しようとする場面がしばしば見られた。エルサルバドルの民主化は確実に前進している。

国会議員選挙の結果

	議席数	前回との議席比
ARENA	39	0
FMLN	21	+21
PDC (キリスト教民主党)	18	-8
PCN (国民融和党)	4	-5
CD (左翼連合)	1	-7
MU (統一運動)	1	+1
MAC(キリスト教真正運動)	0	-1
UDN (国民民主連合)	0	-1